～挨拶いっぱい　笑顔いっぱい　ワクワクいっぱい　白石小学校～

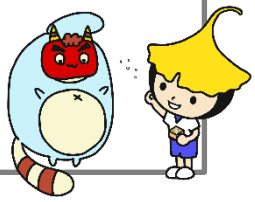
マスク・手洗い・換気！　改めて用心！

山口市立白石小学校

第　１１　号

２０２１.２.１発行

白石小学校だより



ゆ　ず　り　は

２月になりました。今年度はいくつかの行事が新型コロナ感染症拡大防止のため、無くなりました。子どもたちが楽しみにしていた集会やイベントも同様です。集うことができません。楽しい給食時間も黙って食べないといけません。なんとなく心がふさがれそうな秋・冬でした。何より高学年にとっては自分たちの力で行事や集会を運営していく機会が縮減されたことは学校にとっても大きな悩みでした。

そんな中、**子どもたちは悲しんでもしょうがない。文句を言ってもはじまらない。**とアイデアを出し合い、新しい取組を創ってくれました。（学校だより 12 月号で一部紹介）

みんなが楽しめるコーナーをつくったり、オンラインで新しい集会の形をつくったり、ミニクラスマッチを企画したり、黙って食べる給食時間をより楽しむために、いろいろな番組・動画配信をつくったり…それは大活躍・大感動です。

何より素敵なことは子どもたちが自分たちで企画し、準備を重ね、自分たちで創りあげていったことです。例年通りの行事が進んでいたら、なかったかもしれないと思うと、「みんなで集えない」という大きな壁も意味を感じます。子どもの日記？を紹介します。

「みんなにしかも生放送で届けないといけないプレッシャー。『この人誰でしょうクイズ』の進行では「写真をチェンジ」「表情、目線に気を付けて」という合図を係が送ってくれました。生放送なので、隣のクラスから歓声や笑い声が聞こえたときは、とっても嬉しい気持ちになりました。みんなに喜んでもらえて本当によかったです。」

「（企画を終え）みんなから拍手をもらって嬉しかった。そして楽しいことがなくなってしまっても、楽しいことを自分たちで考えてやってみるといいんだと思った。」

「給食時間、おもしろかったです。高学年がつくったおもしろいニュースとか、放送があるからです。お姉ちゃんがでました。わたしも番組をつくってみたいです。」

と素敵な思い　うれしい言葉がつづられています。

実際にがんばった高学年の子どもたちだけでなく、秋以降の高学年のつくったさまざまな企画・イベント・番組にふれた下級生が、次にまた次にと、**ゆずりは**のように新しいものをつくってくれることと思います。

何か思い通りにいかないとき、何か壁にあたってしまったとき、何とか工夫する経験、誰かのせいにするのでなく誰かのためにがんばる経験！はこれからの人生を必ず豊かにしてくれます。

手前味噌で恐縮ですが、本校の教職員も今までにない大きな変化の中、手間をかけ、子どもたちに任せた寛容さもまた、嬉しく頼もしい限りです。寛容さは主体性をみがきます。

２月になりました。新型コロナ感染症心配です。

校 長　　藤 永 靖 彦

見守りボランティアの方や地域の方の登下校の子どもたちへの温かい声かけについて保護者の方から感謝のご連絡がありました。凍えるような寒さの中、長時間、本当にありがとうございます。